

## バックパック旅行記⑫

### パリまり(パリ在住)

ベルガモからバスで45分程でブレーシャに到着、暗くなつての到着なので駅の近くに宿を取っていたのだが、やはり駅周辺は治安が良くなさそうだ。すれ違いざまに奇声を上げてこちらを驚かそうとする輩がいる。夜の外出は控えて就寝。

翌朝、ホテルでの朝食、イタリアの朝食は甘い物が多い、フランスのクロワッサンは中に何も入っていないのだが、イタリアのそれは、クリームやジャムやチョコレートが入っている。シンプルなものが食べたいなと思ってもなかなか見つからない。ハムの種類は豊富で、普段は高いのであまり食べない生ハムもしっかり頂く。残念な事に天気は雨。歩いて20分ほどのサンタ・ジュリア博物館へ。世界遺産にも登録されて



イタリアの朝食

いるこの広大な博物館は古代からロンゴバルド美術、ルネッサンス期となかなかの見応えがある。近くの古代ローマ遺跡にも足を伸ばし、しばしタイムトリップ。塩野七生ファンとしては嬉しい限りだ。

次に列車で「ロミオとジュリエット」の舞台であるヴェローナへ向かう。列車の中で物乞い兼スリが回って来る。結構しつこいので持っていたお菓子を渡すが、それでも立ち去らない。よく見ると隣の席に置いていたリュックに掛けていたジャケットを触っている。全く油断も隙もない。荷物を抱きかかえて睨んでも『バレたか』とばかりに悪びれることなく次の乗客のもとに行く。フランスのより馴れ馴れしいのはお国柄かしら。



2000年前の壁を利用して建てた家

ヴェローナに着いて観光。広場にある円形競技場をぐるっと回りながら、妹と姪にLineでバーチャルツアーをする。「1世紀に作られた円形競技場だよ。この向かいにその一部を使って家を建てているの。2000年前の壁を利用して家を建てるってどうよ?!」と姪っ子に言うと「凄いな」と興味を持ったようなので「イタリアに来る?」と聞くと「まあ、気が向いたら」と反抗期らしい答えが返って来た。

姪には歴史好きになって欲しいなとは思うが、「ジュリエットの家もお墓もあるよ。シェークスピアの創作なのにね」と夢を壊してしまう叔母である、「歴史って時の権力者が自分に都合のいいように改ざんに次ぐ改ざんを重ねて来たから、殆どが嘘やで」と茶々を入れそうな気がする。